

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 12 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	4079600526		
法人名	医療法人 長主病院		
事業所名	グループホーム 光		
所在地	福岡県田川郡川崎町田原1121 〒 827-0004 (電話) 0947-72-7410		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年11月25日	評価確定日	平成21年12月28日

【情報提供票より】(平成 21 年 11 月 3 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 8 月 17 日					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数計		18 人	
職員数	13 人	常勤	13 人	非常勤	0 人	常勤換算 11.2 人

(2) 建物概要

建物構造		鉄骨 造り
	2 階建ての～	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	○ 無	
保証金の有無 (一時金を含む)	有 (円)	有の場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日あたり	1,100 円程度	

(4) 利用者の概要 (11 月 3 日現在)

登録人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護 1	0 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 81 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長主病院 井手口歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人と同一敷地内にあり、幹線道路に面した場所に位置し、リビングや居室等ゆったりとした造りのホームである。母体法人は、この地に開業して26代目を迎える病院であり、地域医療の一端を長期に渡り担っている。母体病院との密な連携のもと、グループホームと病院が持つ特徴や機能を発揮した24時間の連絡体制とバックアップ体制は、職員及び家族の心強い支えとなっている。毎日の申し送りと月に一度のミーティングでは、職員の気づきや意見等を自由に発言することができ、質の向上を目指す職員のモチベーションは高い。「地域と共にゆっくり笑顔で自分らしく」のホーム理念のまま、利用者の生活のペースを大切に、さりげないケア、利用者の心に寄り添うケアが実践されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果については、運営推進会議時に報告を行うなどの取組みがある。この過程で、利用者の状況に応じた速やかな医療との連携やホーム内での運動会の開催、地域交流への継続的な取組みなどが見られる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審に伴い、全職員が自己評価を記入してまとめるなど、全職員がかかわったの取組みがある。この過程において、職員一人ひとりが現状を考える機会と捉えるなど、気づきを持ってサービスの質の向上に活かす取組みがある。
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 関係者を招いての2ヶ月毎の開催がある。外部評価結果やホーム状況などについての報告の他に、地域の防犯や行事についての情報を得るなど、意見交換が行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけやその都度の電話連絡、運営推進会議やホーム行事等を利用して報告を行うとともに、家族の意見の表出に努めている。また、担当職員による状況報告を記載した“たより”の送付などを通じて、暮らしぶりを伝えている。出された意見等については、内容によって直ぐに対応したり、ミーティング時に協議するなどの取組みがある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的な買物や散歩時の挨拶、地域行事への参加や見学、地域子ども会との連携による餅つき、お寺の住職を招いての講話など、日常のかかわりを通じた交流が行われている。

2. 調 査 報 告 (詳 細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ 理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	今年度、再度理念について協議を行い、地域 密着型サービスを意識した理念とケアへの取組 みがある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホールに理念を掲示してあり、自然と目につ く工夫がある。ミーティング時に、日常のケア を通じた理念の実践について協議するなど、理 念の共有化と浸透への取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	日常的な買物や散歩時の挨拶、地域行事への 参加や見学、地域子ども会との連携による餅つ き、お寺の住職を招いての説法など、日常のか かわりを通じた交流が行われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果については、運営推進会議時 に報告を行うなどの取り組みがある。今回の受審 に伴い、全職員が自己評価を記入してまとめる など、全職員がかかわっての取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	関係者を招いての2ヶ月毎の開催がある。外 部評価結果やホーム状況などについての報告の 他に、地域の防犯や行事についての情報を得る など、意見交換が行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議への行政担当者及び地域包括支 援センター職員の参加が見られる。介護保険に 関する質問を始めとして、様々な相談を行いア ドバイスを受けるなど、質の向上に向けた取組 みがある。		
7 追加	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	前回の外部評価結果を受けて、ミーティ ングにて制度等について勉強会を開くなどの取組 みがある。また、家族へは、運営推進会議にて制 度等について説明を行っている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡、 運営推進会議やホーム行事等を利用して報告が 行われている。担当職員による状況報告を記載 した“たより”の送付などを通じて、暮らし ぶりを伝える取り組みがある。		
9 (8)	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	家族面会時や運営推進会議時、その都度の電 話連絡、介護計画の作成時等に、家族の意見や 思いの表出に努めている。出された意見等につ いては、内容によって直ぐに対応したり、ミー ティング時に協議するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	開設当初からの職員が約半数を占めるなど、 利用者と馴染みの関係が構築されている。新し く職員が入職した際は、先輩職員が1対1で指導 を行い、他の職員がカバーするなど、利用者の ダメージを防ぐ取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、年齢や性別等による制限はない。職員同士の協調性や特定の利用者に偏ったケアを行わないという姿勢等を重視している。また、資格取得に向けた支援体制や定期的な給料体制の見直しなど、生きがいを持って働くための環境作りに取り組んでいる。		
12	20 追加	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	常に「私だったら」という考えを持ち、自分がされて嫌と思うことはしないよう心がけながら、日常のケアに取り組んでいる。人権についての研修等への取り組みは今後の課題である。	○	職員の基本的資質でもある人権意識の喚起のために、行政等で行われる講話への参加や新聞記事などを活用してのホーム勉強会、行政担当職員による運営推進会議時を利用した啓発活動など、さまざまな機会を利用して取り組まれることを期待します。
13 (10)	21 (19)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会に参加したり、各種研修や勉強会の案内を提示して希望を募るなど、研修参加の機会を確保している。研修参加後は、ミーティングにて報告を行うなど、情報の共有と標準化に向けての取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との連携や相互訪問、交流などへの取り組みは、今後の課題である。	○	職員レベルでの他の事業所との交流や情報交換を通じて、職員一人ひとりのモチベーションが上がり、質の向上へと繋がります。行政を巻き込んで、他事業所等との連携を図られるような取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族との面談等により得た新規利用者の情報をもとに、職員で協議し、円滑に馴染めるように支援している。他の利用者とのコミュニケーションが図れるように、職員が積極的にかかわるなどの支援が行われている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のかかわりを通じて精神的な面で感じ、学ぼうとする姿勢が伺える。職員は、利用者からのねぎらいの言葉や何気ない一言に癒され、勇気付けられるなど、精神的に支えあう関係が構築されている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて利用者の思いや意向を把握し、ミーティング時に把握した情報の共有と検討が行われている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日常のかかわりを通じて利用者の思いや意向を把握し、面会時や運営推進会議等を通じて、家族の希望や思いを把握している。日々の申し送りやミーティング時に協議を行い、介護計画書に反映させている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	日々の申し送り時や毎月のミーティングに て、利用者毎の情報交換や支援手順の確認、評 価・見直しが行われている。3ヵ月毎および状 況の変化の都度協議を行い、現状に即した介護 計画書の作成がある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	母体法人である病院との密な連携による取組 み、利用者の入院時のお見舞いと情報収集、地 域子ども会との連携による餅つき、お寺の住職 を招いての講話など、その時々状況に応じた 柔軟な対応が行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	かかりつけ医の継続と協力医療機関の利用に ついて相談し、本人・家族の希望に沿って支援 している。協力医療機関と同一敷地内にあり、 定期受診やリハビリ、緊急時の速やかな対応な どが行われている。		
22 (19)	49 (47)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応にかかる指針を 重要事項説明書中に明記し、説明・同意を得て いる。日常のかかわりの中で家族の要望を聞 き、利用者の状況に応じて、その都度、家族・ 主治医を交えて話しあいを行い方針を共有する 体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者の視線に合わせた丁寧な声かけや耳元で の声かけ、利用者の出来る事を見守りながらの支 援など、利用者の精神面でのかかわりに配慮した 対応が見受けられた。ミーティングにおいて、禁止用 語について勉強会を開き言葉使いを意識すること により、人生の先輩として尊敬の念をもった言葉 かけが実践されていた。		
24 (21)	54 (52)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事を中心に大まかな流れはあるものの、そ の時々利用者一人ひとりのペースや状況に配 慮して支援が行われている。食事にかかる時 間、日中の過ごし方など、日常生活の様々な場 面において利用者のペースを尊重した対応が見 受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員が一緒に準備や食事、片付けを している	茶碗拭きやランチョンマット拭きなど、利用 者の出来る事を活かしながらの支援が見受けら れた。キッチンで調理する際の音や匂いが五感 へ働きかけ、食事時間が楽しみとなるような工 夫がある。		
26 (23)	59 (57)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本的に1日おきの入浴であるが、入浴の準 備は毎日行い、利用者の希望や状況に応じ柔軟 に対応している。タイミングを見計らっての 声かけや誘導の工夫など、スムーズな入浴への取 組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	ゲーム、新聞折り、茶碗拭き、洗濯物の収納 など、利用者の希望やしたい事をくみ取っての 取り組みがある。		
28 (25)	63 (61)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な散歩、買物、通院、家族の入院先へ のお見舞いなど、利用者の状態の変化に応じ て、できる範囲での外出への取り組みがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠されており、自由に入出りがで きる。外出傾向が見られる利用者に対して、責任 者を決めて常に傍に寄り添ったり、職員間で声 をかけあうなど、見守りの強化が図られてい る。玄関ホールにはセンサーが設置されており、利用 者の安全と自由な生活への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回の消防署職員の立会いによる避難訓 練を通じて、避難場所や避難経路等の確認が行 われている。運営推進会議にて、地域住民の協 力を得るための働きかけが行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養バランスや利用者の好み等を考慮して献 立を作成し、朝と昼食はホームで調理してい る。食事摂取量、水分摂取量を把握し、状況に 応じて小さく刻んだり、食事介助を行うなどの 支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから食堂、居室と余裕を持たせた造りとなっている。また、リビングは自然光を採り入れ、柔らかな暖かい陽の光に包まれ、ソファでくつろぐ利用者の様子からも、居心地のよい空間であることが伺えた。		
33 (30)	85 (83)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、テレビ、写真、ぬいぐるみなどの品が持ち込まれており、利用者の人柄が伺える居室となっていた。		

- ※  は、重点項目。
※ (数字) は、国の標準例による番号